

札幌市医療的ケア児支援検討委員会

北海道胆振東部地震

医療福祉センター札幌あゆみの園の
状況とその対応

1

報告者：医療福祉人札幌あゆみの園

地域支援部長 今野秀昭

医療福祉センター札幌あゆみの園の概要

▶社会福祉法人 北翔会 **基本理念**

「いかなる障がいがあろうとも、またどのような境遇にあろうとも、人はその存在価値において全て平等であり、等しくその人間性が尊重される」

- ▶ 「医療福祉センター札幌あゆみの園」、「札幌すぎな園」、「札幌乳児院」の3つの施設を運営。
- ▶ 障害を持つ方々が家族と共に地域社会の中で生活することを支援するための事業や相談支援事業、一時的に養育困難になった乳児を短期間預かる子育て短期支援事業など14の福祉事業も行っています。

医療福祉センター札幌あゆみの園の概要

3

►医療福祉センター札幌あゆみの園

事業内容（入所支援）

◇療養介護・医療型障害児入所（184床）

第一療養棟 定義どおりの重症心身障害児者病棟（定員52名）

第二療養棟 定義どおりの重症心身障害児者病棟（定員40名）

第三療養棟 動く重症心身障害児者病棟（定員40名）

第四療養棟 超重症心身障害児者病棟（定員52名）

◇一般入院（定床2床）

◇交流スペース（保護者家族の宿泊施設：5部屋）

事業内容（在宅支援）

◇短期入所事業（定員一日につき12名）

◇生活介護事業（主たる対象：重症心身障害）

　生活介護あゆみ（一日の定員10名）、生活介護ひかり（一日の定員15名）

◇障害児通所支援（主たる対象：重症心身障害）

　児童発達支援ひかり・放課後等デイひかり（合わせて一日の定員5名）

◇居宅介護・重度訪問介護・行動援護支援事業

◇移動支援事業

◇相談支援事業（一般・特定・障がい児）

◇障がい児等療育支援事業

◇外来診療・歯科診療・発達支援外来（発達リハビリ）

地震発生！…札幌市の状況

▶ 基本情報

発生日時：2018年9月6日（木）午前3時8分

震源地：胆振地方中東部

最大震度：7 マグニチュード：6.7 深さ 37km

札幌近郊の震度：

震度6弱 東区、千歳市

震度5強 白石区、北区、清田区、手稲区、江別市、恵庭市

震度5弱 豊平区、厚別区、西区、石狩市、北広島市

震度4 中央区、南区、当別町

地震発生！…札幌市の状況

▶被災状況（ライフライン・交通等）

電 気

- ・苫東厚真火力発電所緊急停止（電気使用量と発電量のバランス崩れる）、周波数の乱れにより全道域で停電（ブラックアウト）…停電により信号、ガソリンスタンドも機能停止、公共交通機関（JR、地下鉄、バス等）も運行中止。

水 道

- ・清田区、厚別区の一部で断水。また、停電によりマンションも断水有。

通 信

- ・固定電話使用不可（一部除く）。携帯電話も回線の混乱有。
携帯電話の充電ができない状況。

ガ ス

- ・設備などの問題なく使用できる状況であったが、ガス漏れなどに注意を要した。
※札幌市より早朝、当園に福祉的避難の受け入れ確認の電話有り。

地震発生！…当園の対応

※大規模災害に備えた各種取り組みが功を奏し、生活に大きな影響なし！

◇建物・利用児者等の状況

- ・建物・設備＝損傷なし
- ・利用児者・職員＝怪我、体調不良なし

（前日の台風の影響もあり、敷地内の倒木あり。後日、汚水管の破損発見）

◇ブラックアウト

- ・東日本大震災後に252kw(315kva)の非常用機能を持つ自家発電機を増設
- 電気・ガス・水道＝全てに支障なし(更に、井水の利用可・非常用ガスボンベ設置)

※利用者の日常生活に必要な電力を確保…燃料はボイラーと共に

(備蓄量は7日以上)

※非常用自家発電装置が即、稼働・・・

発電機は2mの洪水でも浸水しない場所に設置

食料の備蓄・対応等

- ▶ 食料の備蓄は副食5日分、主食7日分以上
- ▶ 経管栄養剤・医療材料等の備蓄…5日分
- ▶ 食糧等を調達できず、出勤した職員へ

2日間(5回)延べ180食を提供

職員確保事例

- ▶ 出勤できなかつた職員…………… ▲13名
- ▶ 在宅支援事業休止に伴う応援職員…………… 10名
- ▶ 自主的に出勤した職員…………… 3名

※公共交通機関が正常に戻るまで、タクシー利用を認め職員確保

在宅重症心身障害児者家族支援

► 短期入所での受け入れ

- ・緊急受入 5名
 - ・予約の前倒し受入 2名
 - ・利用期間延長 4名
- 合計:11名

► 福祉避難者受け入れの開始

- ・家族用宿泊スペース 2家族5名
- ・宿泊期間 2家族とも3泊4日

※食事提供、入浴設備有。

福祉避難所利用家族・事例1

◇ひかり:生活介護事業、障がい児通所支援

札幌市防災計画に定める地域避難所として指定を受ける(平成29年7月)。

・避難家族=「放課後等デイひかり」利用家族(本児・兄・母)

※停電による電源確保並びに、父会社につめる為、何かの時の安全確保。

4:00=父の車で避難してくる…職員迎える。サクション貸出し(充電満タン)

ひかり停電=車のライトで中を照らす。

5:30=管理職到着(コンビニで朝食調達…品物なし。カステラ・シュ-クリーム・コーヒ-を朝食に)。

8:00=本体に福祉避難所受入確認。

自家発電機をひかりに搬送…ひかり電源確保。

11:00=ひかりから本体施設に移動(父の車にて)。

家族3人、本体施設交流室にて3泊4日過ごす。

※ 母:近くに安心できる避難所があり本当に助かりました。

また、食事も用意していただき心から感謝です。

ひかり建物(東区東雁来)



福祉避難所利用家族・事例2

◇「生活介護あゆみ」利用者家族(利用者、母)

生活介護あゆみ: 早朝より安否確認と閉所の連絡を各家庭にいれる。避難希望者2家族あり。内1家族は電気回復し、自宅待機。午前中に1家族2名生活介護あゆみに避難、後に福祉避難所対応をとる。 ご家族から、写真と報告文をいただきました。 ご報告いたします。

今まで経験した事のない大きな揺れ、再度、揺れが来るので不安。娘の吸引器と吸入器は充電できるので、数時間なら大丈夫かと。

生活介護あゆみに連絡し、快く受け入れを承諾……嬉しくそして、安心。我が家はMSの5階、エレベーターも止まり、住民の方々が娘を担架に乗せバギーも一緒に降ろしてくださった……感謝。車であゆみに！寝袋・毛布持参。思いがけず交流室利用。 食事付で何の不自由なく3泊過ごしました。



宿泊した交流室



普段緊張する娘が
リラックスし、しっかり
睡眠もとれました。



食事の提供。 ありがとうございました。とても美味しかったです。

地震を防ぐことはできませんが、避難でき安心を得ることができました。

帰宅後、手動式吸引器・電池式吸入器・蓄電器を購入しました。

この度の地震は、色々なことを考える良い機会となりました。



避難時に提供いただいた食事です。職員の皆さんも大変な中、本当に感謝です。



寄せられた家族の声

- ▶ 地震の際に避難場所について市の危機管理対策室に問い合わせたところ、停電でエレベーターも信号機も止まっている状況で、自宅（中央区）から離れたあゆみの園まで行くよう言われた。
- ▶ 停電で電動シャッターが動かない。車が使えない。
- ▶ 地域避難所は医ケアがあると避難できない。
- ▶ 基幹避難所（中学校）に行つたが居場所がない。やむなく車の中で一夜を過ごす。
- ▶ 福祉避難所の公表を。
- ▶ その他、停電に対する電源確保、食材の不足、これが冬期間だったらという不安の声が寄せられました。

在宅支援の立場からの反省

- ▶信号機が停止した中、単独で安否確認や運搬、移動をしていた…複数人で行動すべき。
- ▶福祉避難所への避難は2家族だったが、二桁以上の避難家族の時を考えると…シミュレーションを要する。
- ▶安否確認、休所の連絡等、携帯電話だけでは限界がある。今後、メール配信等の検討を要する。
- ▶ひかりは地域避難所として、1家族受け入れたが、区役所との連携がなされなかつた。

※以上、今後も防災意識を高め迅速に行動できるよう、避難訓練等に取り入れていきます。